

1 設定理由

犬の飼育頭数が減少したため繁殖したいと考えた。しつけをすることによって、管理の効率を良くしたいと思いこのテーマを設定した。

2 飼育条件

- (1) 実施期間：2017年4月25日～12月24日までの約8カ月間
- (2) 実施場所：動物科棟2階産室・トリミング室
- (3) 使用道具：餌皿・給水器・産箱・サークル・ケージ・バスタオル・ヒーター・トイレマット・ラジオ
- (4) 使用個体：犬6頭

	繁殖			しつけ		
	エル♀	アラレ♀	ラテ♀	ツバキ♀	モメン♀	ユバ♀
個体写真						
	H25.9.24 生	H28.3.2 生	H25.6.23 生	H28.10.29 生	H29.1.24 生	H29.1.24 生
品種名	トイ・プードル		ビション・フリーゼ	M.シュナウザー	ヨークシャー・テリア	
	(シルバー)	(アフリコット)	(ホワイト)	(ソルト&ペッパー)	(スチールブルー&タン)	
飼料	ホリスティックレセピ [®] -(アダルト)			ホリスティックレセピ [®] -(パピー)		
	1回量 45g	1回量 40g	1回量 45g	1回量 50g	1回量 30g	1回量 30g

3 繁殖やしつけの方法

(1)繁殖方法

- ① 発情出血を確認した日を記録した。
- ② 出血から9～11日目に同じ品種の雄と交配させた。
- ③ 交配後はあまりジャンプをさせないようにした。
- ④ 妊娠中は激しい運動は避け、胎児の発達に応じて給与量を増やしていった。
- ⑤ 交配56～58日目あたりにレントゲンを撮影し、胎児の頭数を確認した。
- ⑥ 出産に向けて、体を洗い、トリミングした。
- ⑦ 体重測定は管理ごとに行い、体温測定は週に1回、43日目から3日に1回、56日目から朝・夕の1日2回行うようにした。

(2)子犬の管理方法

日付	生後	様子・行ったこと
10/3	14日頃	目が開き始めた。
10/8	19日頃	歩き始めた。
10/9	20日頃	スロープを取り付け、自由に歩けるようにした。
10/17	28日頃	離乳食を与え始めた。
10/19	30日頃	伸びた爪を切った。
11/7	49日頃	子犬同士で遊び始めた。
11/12	54日頃	産室から動物舎に移動させた。

(3) しつけ

- ・名前…名前を1回呼び、指導者の顔を見たら、報酬としておやつを与えた。
- ・おすわり…犬の鼻におやつを近づけ、そのまま頭の上に移動していき、お尻が床に付く直前で「おすわり」と声をかけ、きちんと床に付いたら、報酬としておやつを与えた。
- ・まで…右手でおやつを持ち、左手で犬が近付いて来ないように抑えた。までができるようになったら、指導者が1歩ずつ離れていき、徐々に離れる歩数を増やしていった。
- ・リーダーウォーク…担当者より犬が前に出たら止まり、犬が自ら担当者の横に戻るのを待って、戻って来たら歩くのを再開し、それらの動作を繰り返した。

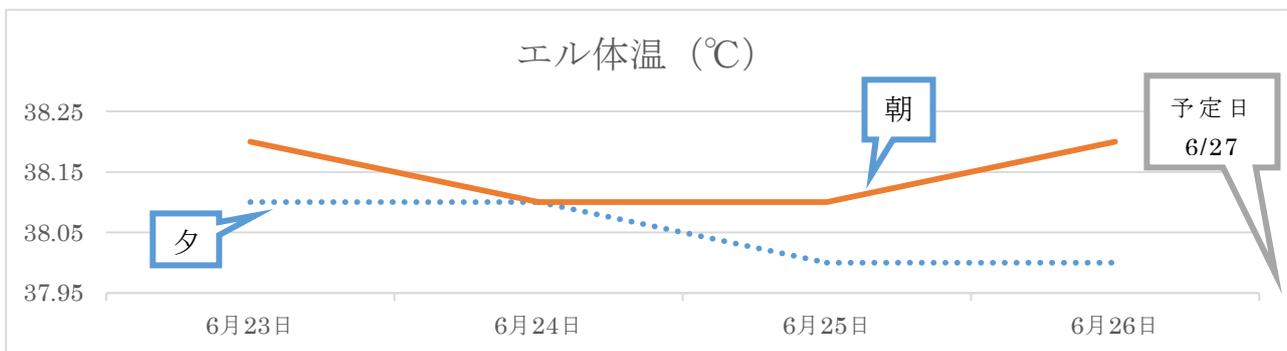
4 結果

<繁殖>体重変化



測定開始から出産までの体重の増加は、エルが **0.9kg**、ラテが **1.2kg** であった。このグラフより、体重が急激に増加するといわれている交配後 5~6 週目に数値が大きく増加していることが確認できた。

<体温変化>



このグラフより、出産の2日前から体温が徐々に下がり始めるということが確認できた。エルが朝、出産したため出産直前の体温上昇を確認することはできなかった。ラテは管理

出来ない日が続いたため、きちんと測定し結果を得ることができなかった。アラレは胎児が小さく、途中で妊娠していないと判断したために、体温を測ることをしなかった。

<子犬について>

- ・エル 6月27日（交配60日目）出産

子犬①♀	8:46 出産	213g
------	---------	------

- ・ラテ 9月19日（交配62日目）出産

子犬②♂	10:21 出産	119g
------	----------	------

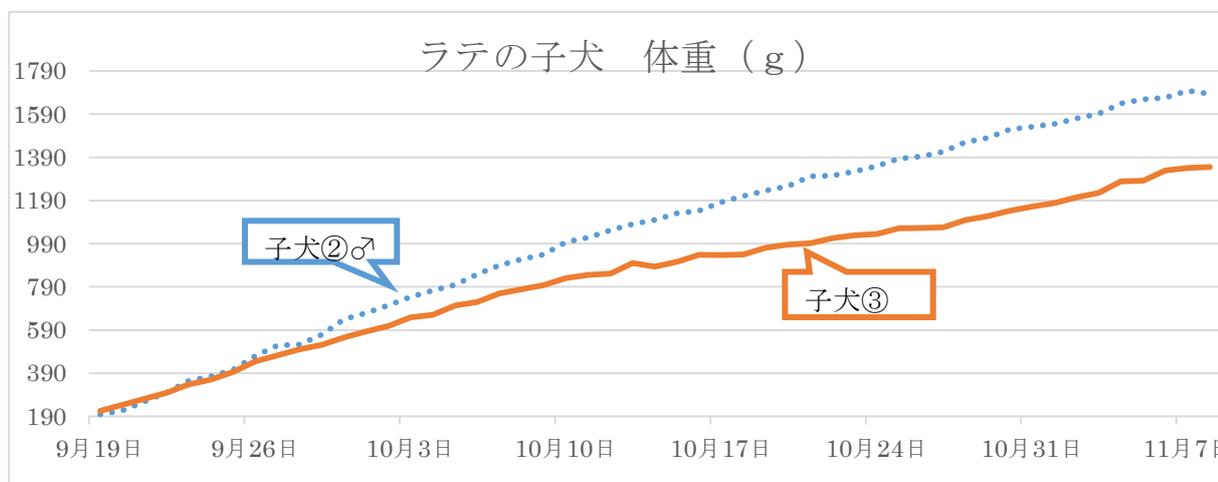
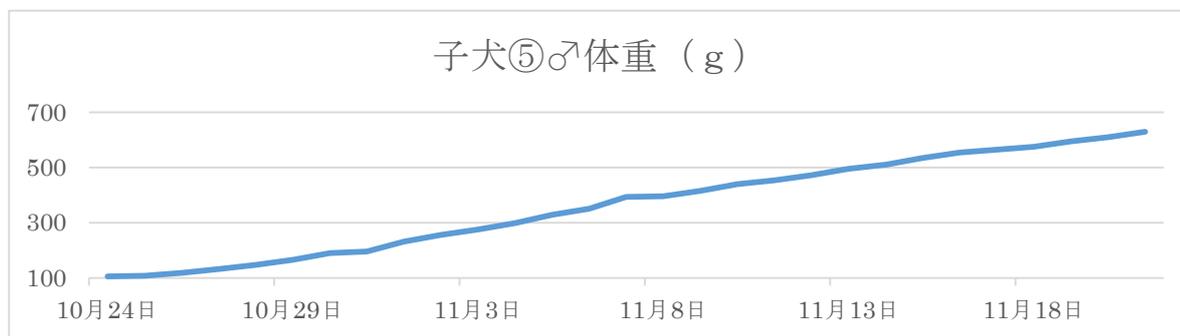
子犬③♀	12:03 出産	215g
------	----------	------

- ・アラレ 10月24日（交配61日目）出産

子犬④♀	14:32 出産	79g 10月30日 13:43 死亡
------	----------	---------------------

子犬⑤♂	16:15 出産	105g
------	----------	------

<子犬の体重変化>



このグラフより、子犬の1日当たりの体重変化は1日40gの増加が理想であるため、子犬4メス以外は順調に成長していることが確認できた。

<しつけ>

	(名前)	おすわり	まで	リーダーウォーク
ツバキ♀	覚えた	できた	できなかった	できなかった
モメン♀	覚えていた	できた	できた	できた
ユバ♀	覚えていた	できた	できた	できた
子犬①♀	覚えた	できなかった	できなかった	できなかった

5 考察

(1) エルの繁殖

胎児は1頭だったが、普段の管理で給餌量の変更や、移動の際の抱っこなどに気を遣ったため、大きく、元気な子犬を出産したと考えられる。エルは元々神経質な性格のため、出産後1週間は馴れている教員に飼育管理を頼んだことも、しっかりと育児ができた要因と考えられる。しかし、その後、子犬は2度にわたって脚を骨折し、2度目は床で転んだことによるものだったため、遺伝的に骨が衝撃にあまり強くないと考えられる。

(2) ラテの繁殖

お腹の膨らみ具合から4頭いると思われていたが、大きな胎児が2頭生まれた。給餌量を変更したおかげで、栄養がしっかり補えたと考えられる。ラテの母親は子育てがうまかったこともあり、ラテも子育てが上手で子犬が順調に育ったと思う。

(3) アラレの繁殖

交配相手のオスが小さく、お腹の赤ちゃんも小さかったため、アラレのお腹が膨らまず妊娠しているのかの確認が難しかった。また、アラレは行動が活発で出産間近になるまで大人しくならず、妊娠している兆候が分かりづらかった。出産日前日に妊娠していないと判断したため、レントゲンを撮らず出産準備をしなかった。そのため1頭目を外で出産してしまった。外で出産してしまい体温も上がらなかったため、母乳を吸う力もなく栄養が足りなくなり死んでしまった。

(4) 子犬のしつけ

モメン♀とユバ♀が実施した内容を全て覚えることができたのは、良くない習慣が身についてしまう前に、しつけを開始したからだと考えられる。ツバキ♀が、まととリーダーウォークを覚えることができなかったのは、しつけを開始する時期が遅く、良くない習慣が身についてしまっていたことと、1つの物事への集中力が途切れやすいからだと考えられる。子犬①♀は、しつけの開始予定であった9月下旬頃に骨折をし、その後2度目の骨折により十分にしつけをすることができなかったため、名前を覚えることしかできなかったと考えられる。

6 次の人へのアドバイス

繁殖をさせる時は、普段の飼育管理の時よりも、食欲の有無や糞尿の状態、落ち着きがない、甘えてくるなどの行動を観察することが大切になる。また、体重や体温は犬のストレスにならない程度にこまめに測定することで、胎児の有無や予定日などを予測しやすくなる。給餌量は、調べた数値を参考に、母犬の体形や状態によって徐々に変更していく必要がある。しつけは、実施する犬の集中力や疲労具合などを考えてペース配分をし、それぞれに適した方法を模索していくことが大切になる。

7 参考文献

子犬のへや <http://www.koinuno-heya.com/>

わんちゃんホンポ <https://wanchan.jp/osusume/detail/1430>

H&B lab <https://hb-1-pet.net/dog-breeding/>

Dogoo.com <https://www.dogoo.com/toukou/dogqa/html/10.html>

カラパイア <http://karapaia.com/archives/52205569.html>